

幼稚園の教育

Nursery-Kindergarten Education

Ed. Jerome E. Leavitt

.....Mcgraw-Hill Book Co. Inc. N. Y. 1958

(一) レディネスの意味

幼稚園や保育園の教育にたずさわっている人々ならほとんどの人々が気づいている事であり、まずけれども、子どもたちに何か新らしいことを教えようとするとき、その新しい経験に対するレディネス(準備)ができていると、いないのでは、その効果の現われ方に相当の違いがでてきます。でもそのレディネスとは一体どういうことなのでしょう？ それについていろいろの本に書かれていること、また多くの人々によって話されていること、それは非常にまちまちであります。「レディネスができていることは、子どもの学習の効果をあげるのに非常に有効である」ということから、逆に、子どもたちの学習の効果があがる前の状態を考えれば、レディネスの意味もいく分かは、はっきりしてくるのではないかと思えます。そこで子どもたちの学習の効果とその時、またはそれ以前の状態との関係を次に列挙してみたいと思います。

- ・子どもの受容性ができていないと学習の効果はあがらない。

- ・学習の効果があがる前に子どもの興味が表示されなければならない。
- ・子どもたちが身体的に調子のいい時の心情に訴えるときは、それ以外の学習の興味をも同時に促す。
- ・おとなや友人に、人格的に受け入れられていること、それは子どもたちの学習経験に非常に利益になる。
- ・子どもがこれからある事柄を学ぼうとしている時に、身体的・情緒的・社会的・精神的に、その事柄に成功し得るだけの一定の成熟水準にまで到達していること。
- ・以上のように受容性、興味・身体的に調子のいい時の心情に訴えるもの、人格的に受け入れられていること、一定の成熟水準に到達していること、などの示す一連の状態をレディネスの意味と考えてよいと思えます。
- ・そして現在、ナースリー・スクール、幼稚園、小学校においては子どもたちの生活年齢によって組編成(学年編成)がなされていますが、子どもの発達について研究している人々は、発達の型や、性格、興味、要求など

によって組分けすることを強調しています。

つまり子どもたちのレディネスに基いた組織(学年編成)を強調しているのです。子どもたちにもっともよい学習経験をさせようとか、正しい有効なカリキュラムを作ろうとして努力している人々によっても、子ども自身の要求(レディネス)を示すもののみつめることは是非必要なことなのです。

(二) ナースリー・スクールにおける

レディネス

子どものレディネスを観察し、それを理解して、次の保育の学習経験の場でそれを役立てていける、という点において、ナースリー・スクールの教師は実にはうらやましい地位にいます。たしかにナースリー・スクールのプログラムは非常に融通性の効くものである為に、子どもたちの環境をよくみつめ、いろいろの種類(の道具を使って型にはまらない自由な実験をし、それらを子どもの為に役立てるだけの時間の余裕があるという点で、幼稚園や小学校よりはるかに優れています。またナースリー・スクールの教師は非常に少人数のグル

ープの子どもといっしょに仕事をしたり遊んだりしますので、ひとりひとりの子どもをじゅうぶんに知ることができません。しかもナースリー・スクールへ子どもを通わせる両親は常に教師と密接に連絡をとっているのです、なおさら子どもの個人的な要求とか興味を理解することができません。

子どもが自分の成熟水準に合った広い学習経験を体得できるには次のようなことが必要です。

・子どもと他の人々との関係に幸福感があふれている時。
・子ども自身の地位が温かく親密な地位にある時。
・子どもが健全な健康状態で毎日を楽しんでいる時。
・子どもが自分の疑問に解答が得られた時。
・子どもが家族に愛され望まれている時。

そして両親や教師はいつも子どもをそのような状態においてあげるように心がけるべきなのです。ひもじい思いをしたり、病気がったり、家庭でひどい仕打ちをされているのおとなを疑い深かったりする子どもからは決してその子どもの成熟水準に合った望ましい

要求は生まれてきません。ナースリー・スクールには前者のような子どもも、後者のような子どもも種々雑多に入ってきます。教師はそのひとりひとりについて目を向け、心をかたむける必要があるのですが、やはりどの子どもにも共通した要求(NEDS)も考えられ、その子どもに独特の要求に基いて保育計画を作り毎日の保育を進めていくべきだと思います。どの子どもにも共通な要求として、

・初めはただ他の子どもにくっついて歩いていたのが、その中に小さなグループにそった事を順序正しくするということからくる安心感を感じようとする要求・遊びを通して自分自身を子どもの世界に方向づけた要求・満足したい要求と友人などに望ましい要求・情緒的表現のはげ口として建設的な活動をした要求・探けんしたり、実験したりできる広い世界の要求・独立したい要求・幸福な家族関係の中におかれた要求・理解のあるおとなに接したい要求などが考えられます。

(三) 幼稚園におけるレディネス

幼稚園の教師はレディネスについて二つのことを考える必要にせまられています。一つはすでに子どもの身につけているものを日々の経験の中でどのように生かすか、ということ、もう一つは将来の生活あるいは現在の生活を豊富にするためにはどのような活動を計画したらよいか、ということであり、幼稚園の子どもにとって当然やって来るべき未来というのは小学校の一年生であり、その時代がいかにしたら満足のいく時代になるかというの、幼稚園時代の経験に左右されます。だいたいにおいてナースリー・スクールや幼稚園の子どもたちは、子どもの一般的な発達段階からみてみると、身体的な発育が他の時代より目ざましい時期であります。そこで子どもたちにはまず広い運動のスペースを与えてやらねばならないし、遊具ももっと考えて、従来のものとはちがったものを与えてあげる必要があります。大きなブロック類をいろいろとあてがうのもよいと思います。子どもたちがその場の場の想像によって身体的

運動ができるようにしてあげることが必要です。また子どもたちは情緒的・要求の強い子ども、あるいは社会的な要求の強い子どもというように各々違った要求を持っています。そこで教師はひとりひとりの要求をよく知り、幼稚園の保育計画を作る時の参考とすべきです。また子どもたちは当然ある面では他の子どもより大部遅れているけれども、ある面ではすでに平均に達しているかまたは非常に優れているかしている場合がしばしばあります。教師はこれらにも気づくことが必要です。そして次に用具を整える時などは教師がそれまで気づいてきたいろいろの面に適合したものをとりそろえるようにすべきです。子どもの要求というのはレディネスを示すものであり、子どもの要求の特性を知り、その要求にマッチした特別な活動を計画することが大切です。

(四) 小学校入学のレディネス

学令期に達すると子どもたちは一応みな小学校へ行きます。そして同じ教室内に坐らせられている子どもたちは、本質的にはみな同

じ教科書なり、教材を与えられるわけですが、実際子どもたちの習得するものは個人によって異なってきます。それは個人のレディネスの異なりによる部分が多いようで、小学校の教師は、読み方、書き方、算数などのレディネスの手ほどきを幼稚園、またはナースリー・スクールに望んでいるということ、幼稚園またはナースリー・スクールの教師は気づいているべきです。

次に小学校の教育を受けるレディネスができている子どもを考えてみます。例えば

- ・ 学校環境によく適応すること。
- ・ 身体的に健康であること。
- ・ 家庭、学校、隣人環境を理解していること。
- ・ 計画したり、討論したり、経験談を話したり、描写したり、物語りを話したりできるためにじゅうぶんな語彙およびことばの使い方を知っていること。
- ・ 一定の時間注意深く見たり聞いたりできるように、精神的にも、身体的にもじゅうぶんに発達していること。
- ・ お部屋にあるいろいろの道具(紙、鉛筆、クレヨン、はさみ、粘土など)が容易に使え

ること。・責任を負う能力を持っていること。・自由にしかも熱心に学校の活動に入れるように、家庭や両親から適当に独立していること。

などが身につけている子どもは、学校生活に入り込んでいく為の、最も基礎的なレディネスができていると考えられます。

また字を教える時には、子どもは次のような段階（レディネス）にまで到達している必要があります。

・本、記号、見出しなどを読むのを習う興味を持っていること。・印刷されていることば、記号などが表現できること。・物語り、詩、お話、など話せること。・続きものの筋が追っていけること。・リズムワードやジングルなどことばの音に興味を持っていること。・左右、上下、内外、多い、少ない、長い・短かいなどのことばの意味を理解する用意ができていること。・物の類似や差異を指摘したり、比較することができること。・視覚筋肉がじゅうぶん発達していること。・ことばや物の道理について

常に興味と好奇心を寄せていること。・精神年齢が六才以上になっていること。

以上のことが身につけている子どもについてはじめて、字を教えること（読み方）の意義が明らかになってくるのでありますから、すでに、小学校に入学していてもまだ字を教える段階に達していない児童もありますし、まだ幼稚園、保育園に在園していても字を習うレディネスのじゅうぶんそなわっている子どももいるわけです。

読み方の他に書き方を教える場合にはさらに・手や、指の小さな筋肉が上手に使えること。・直線、曲線をはっきり書くことができること。が必要で

算数についての学習を始める前には、
・空間の概念（大、小）大きき（より大きい）、大きい、小さい、より小さい）、
・時間（朝、おひるすぎ、はやい、おそい、午前）、
・お金の値、
・タイムスベール（そのころ、ずっと以前に、今頃）、
などの概念をはっきりつかんでいることが必要です。

（吉田三和子）

幼児の教育 第五十九巻 第二号

二月号 © 定価五〇円

昭和三十五年一月二十五日印刷

昭和三十五年二月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所
フレーベル館にお願いいたします。